



### 街中の里山で開催される人気イベント『チャイムの鳴る森』『ちょい森』 ～川上（山）と川下（街）をつなげて日本の森や林業の可能性を探る～

#### ■5,000人を集客したイベント『チャイムの鳴る森』

奈良県王寺町から上牧町にかけて広がる里山「陽楽の森」。1,500haの森林を所有する県内有数の山主・谷林業株式会社が管理する私有地のため普段は入れないが、この街中の美しい里山を舞台に最近面白いイベントが開かれている。

2014年5月にこの陽楽の森で初開催されたのが『休日うら山フェスティバル・チャイムの鳴る森』（愛称“チャイ森”）。林業や里山を街の人にもっと身近に感じてもらうために、谷林業と陽楽の森近くにあるカフェ兼写真教室「ナナツモリ」が企画し共催した。

広報、集客、全体のブランディングなどを担当したナナツモリオーナーでカメラマンの田村広司氏は「赤字になったら自腹を切る覚悟をしていた」と当時を振り返るが、蓋を開けてみれば2日間で約5,000人の来場者を集める大成功。「食べる・買う」（約60の飲食・クラフト関係の店舗が出店）、「見る・聴く」（森の中に設置されたアートやステージでの音楽ライブ）、「知る・遊ぶ」（チェーンソーや架線集材などの林業実演ショー、木登り、秘密基地作りなど）の3つのテーマに基づいた様々な企画で大いに賑わった。

「ただのイベントではなく、川上（山）と川下（街）をつなげて日本の森や林業の可能性を探る貴重な機会となったのでは」と田村氏。2015年11月開催の第2回チャイ森も、5,000人以上集客する成功を収めた。

しかし多くの出店者を集めるこれだけ大掛かりなイベントの開催は年1回が限界。来場者から多く寄せられた「この森に日常的に入れませんか」とのリクエストに応えるため、今年4月より、「月に一度の陽楽の森開放日」というコンセプトの『ちょい森』を開始した。

#### ■月に一度の『ちょい森』で気軽に自然を楽しむ

『ちょい森』ではチャイ森のように大掛かりなイベントや店舗出店はないが、気軽に陽楽の森に入り、林業従事者の方々によるワークショップ、ナナツモリの出張喫茶、たけのこ掘り、バームクーヘン作り、森のガイドツアーなど、その回ごとに企画されるイベントをのんびりと楽しむ。

チャイ森ほどの混雑もないので、これまでの開催では家族連れが多く来場し、子供たちが自由に森やツリーデッキなどで自然に親しんだ。

「林業や山林の問題解決のための一つの長期的方法として、子供たちが幼い頃から自然に親しむことが有効なのは。子供も大人もこの陽楽の森で、人工的な公園とは違う自然の魅力に気づいてもらえれば」と語る田村氏。今後も無理のない範囲で月1回の開催を目指す。

次回ちょい森は7月下旬に開催予定（開催日は未定）。第3回チャイ森も今年秋頃に開催を予定している。いずれも入場無料。詳細は「チャイムの鳴る森」公式Facebookを参照。（吉村謙一）



過去2回開催された『チャイムの鳴る森』の様子。様々なイベントが催されいずれも2日間で約5,000人を集客した。